

「表現運動」の特性をふまえた評価票の提案

西村 依子

(大学院発達教育学研究科研修者)

川口 千代

(教育学科教授)

1. 緒言

舞踊教育の問題の一つとして、指導者が「表現運動」授業でどのように学習者を評価すれば良いかといった、評価の基準が定まっていなかったことがあげられる。どの表現が生き生きした表現であるかなど、その基準が定まっていなかったに、今までの実践研究でも学習者に自分で今日の授業での出来栄を評価する質問用紙や、自由記述の感想文などを参考にしながら、評価している事例的研究が多くなされているが、評価の基準として標準化されている事例はまだない。

体育科授業の評価検討や授業研究の実践は、長きに亘り成されていることは周知の通りである。特に高橋・長谷川らは、1授業時間ごとの子どもからみた形成的評価の因子構造として、「意欲・関心」「成果」「学び方」「協力」の4つの観点を明らかにした。これをもとに12項目の形成的授業評価票を作成し、この評価票をさらに毎授業時間ごとに実施できるように再検討し、9項目に作成されたものが広く実施されている「子どもによる形成的授業評価票」である。この「子どもによる形成的授業評価票」(高橋ら、1995)をもとに松本富(1996)は、子どもがどのような観点を「表現運動」授業を捉えているかという視点から、「表現運動」授業の評価構造を実証的に明らかにし、ダンス(表現運動)授業のための形成的授業評価票の作成を試みている。

またこの評価票項目の検討に先駆け、松本富(1996)は松本千(1980)のダンス学習の授業観「踊る」「創る」「観る」の学習活動と、これらの「踊る」「創る」「観る」という3つの活動

から育みたい学習行動を「学び方」として、おのおのに対応するように評価項目を作成した。この評価票を中学生対象に実施し、その結果から中学校の子どもからみたダンス授業の評価観点は、①「おどる・つくる」②「わかる」③「かかわる」④「とりくむ」の4つの観点を構成された。この観点をもとに松本富(1996)は評価票を再検討し、17項目から成る新たな評価票を作成した。そしてこの評価票を今度は、高校生を対象に実証しているが、事例を増やし質問項目の内容や、項目数、評価基準の検討が必要であると思われる。そこで本研究では、この松本富(2003)の評価票を参考に「表現運動」の特性もふまえながら質問項目を再検討し、被授業者の自己評価としての観点を探り、評価票を新たに作成することを試みる。

また上記であげたいずれの研究も授業評価構造であり、学習者の自己評価の構造は明らかになっていないことも課題の一つであると考えられる。「表現運動」授業において被授業者の共通の到達目標は、「表現」の授業内容においては表現の主題(テーマ)に即した動きを考え、それを体で表現することである。しかし、表現の仕方は評価の基準が定まらないという点があり、評価が困難であることが挙げられる。表現のテーマにそって創作をする際には、1人で踊る場合は主題が如何に、見ている側に伝わるかどうかの動き方であり、グループ創作の場合は、それに加えて主題に対する仲間との共通のイメージを持つことではないかと考える。そこで本研究では、被授業者(以下、講義受講者)の自己評価を対象とすると共に、個人・グループ学習の両

方の視点からも調査項目を分けて調査し、観点を探ることとする。

よって本研究では、調査質問用紙の分析から「表現運動」授業の受講者の自己評価構造を明らかにし、より良い評価票作成のため質問項目を検討することとする。なお、調査質問用紙については、松本らの先行研究「子どもからみたダンス授業評価の構造」(1996)を参考に、「動きの構成諸要素」(川口ら, 2004)を考慮しながら質問項目を筆者が作成し、調査用紙を作成することにした。この質問用紙をもとに、「表現運動」授業において、受講者がどのような観点で表現運動(ダンス)をしているかを自己評価の視点で探り、また共通の観点を見出し、評価票を作成する。

2. 目的

本研究では、「表現運動」授業の受講者を対象に、筆者が作成した質問用紙による調査を、授業後に行う。この質問用紙の分析の結果から、次の事柄を明らかにする。

- ① 因子分析より因子を抽出し、「表現運動」授業受講者の自己評価の観点を探る。
- ② 授業の感想文をKJ法(発想法)によりカテゴリーに分類し、「表現運動」授業受講者の自己評価の観点を探る。
- ③ ①と②の結果を比較し、「表現運動」授業受講者の共通の観点を探る。
- ④ ③で得られた共通の観点から、「表現運動」授業における自己評価票の質問項目を検討し、「表現運動」授業の評価法の提案とする。

以上の事柄を「表現運動」授業後の調査質問用紙と自由記述を分析し、その結果から「表現運動」授業の受講者が、どのような観点で「表現運動」授業を受講しているかを自己評価の視点から観点を見出す。またそれらの結果をもとに、評価票を作成することを目的とする。

3. 方法

1) 調査方法

質問用紙の種類は、次の3種類を作成し配布

した。(資料1～資料4参照)

- ① 舞踊経験に関する質問用紙(資料1参照)
- ② ダンス(表現運動)授業での質問用紙「リズムダンス」・「フォークダンス」用(資料2参照)
- ③ ダンス(表現運動)授業での表現に関する質問用紙「表現」用(資料3, 4参照)

質問用紙①に関しては、横軸に年齢、縦軸に舞踊経験に関する質問項目(4問)とし、表にした質問用紙である。質問項目の最後に、自由記述として、ダンスに対するイメージを質問している。質問用紙②, ③に関しては、調査用紙の質問項目をダンス授業の形成的授業評価票(松本ら, 2003)の質問項目を参考に加筆・修正をしながら作成した。松本富子らが提示した授業評価票の項目の他に、動きの構成諸要素(川口, 2004)を考慮した質問項目を筆者が考え加筆した。また、その他必要と思われる項目も筆者が考え加筆した。質問項目は、松本の先行研究(1996)で明らかになった、「おどる・つくる」「わかる」「かかわる」「とりくむ」の次元に筆者が項目を分類・配列し、回答者には五段階で評価できるようにした。さらに質問用紙は、個人の評価を問うものと集団(グループ)の評価を問うものに分けて作成した。

本研究の対象は、K大学の発達教育学部教育学科で開講されている体育科教育内容論の受講生を対象にしている。本講義の受講生は全138名の女子で、学校体育での「表現運動」「器械運動」「ボール運動」を中心に、実技を伴う講義を3班に分かれ(1班約40名)、各領域の授業時間数全4回を巡回して受講した。

実態としては、発達教育学部教育学科の2回生が大半であり、他学部の生徒や3, 4回生も若干名、含まれている。受講生には、講義1回目の開始前に、舞踊経験に関する質問用紙(質問用紙①)を配布し、舞踊経験とダンスに対するイメージを記入させた。この結果から学校体育の授業では、どの年齢においても何らかのダンス授業を大半の受講生は受け、ダンスを経験している。詳細に見ると、就学前と小学校在学時には「リズムダンス・フォークダンス」が中

心であり、中学・高校と年齢が上がるにつれ「表現」の内容も加わり、「両方ある」と答えた人数が多かった。また、学校のクラブ活動での経験はほとんどなく、経験がある人は、高校在学時にダンス系の部活動に入部していたようである。学校以外での舞踊経験者も少なかったが、経験者の中には就学前や小学校在学時にジャズダンスやバレエをやっていたという意見があった。人前でダンスを発表した経験に関しては、人数の大半が学校の授業や運動会などの場では、発表した経験があるようであった。つまり、研究対象の舞踊経験としては、大半の受講生は学校の授業で経験したことがある程度で、「リズムダンス・フォークダンス」や指導者が考えた振りを真似たダンス経験があるということと、「表現」の方ではグループで創作ダンスをした経験があるということが言える。

3) 研究方法

調査期間：2005年04月12日（火）～2005年07月

12日（火）期間中の毎週火曜日 2時

～12時（10：35～12：05）講義終了時

対象授業：発達教育学部教育学科 体育科教育内容論「表現運動」90分×全4時間（指導者：K大学発達教育学部 K教授）

研究対象：K大学発達教育学部教育学科 体育科教育内容論「表現運動」受講生 138名

調査方法：全4時間の講義毎に調査用紙を、次のような手順で配布し、回収した。

<質問用紙①> 舞踊経験に関する質問用紙…講義1回目の開始前のみ

<質問用紙②> ダンス授業に関する質問用紙（リズムダンス・フォークダンス用）…講義1回目の終了後のみ

<質問用紙③> ダンス授業での表現に関する質問用紙（表現用）…講義2回目～講義4回目の終了時毎

回収した質問用紙は、筆者が研究室にて因子分析とKJ法によって分析した。

4) 分析方法

<因子分析>

質問用紙②「ダンス授業に関する質問用紙（リズムダンス・フォークダンス用）」と質問用紙③「ダンス授業での表現に関する質問用紙（表現用）」については、因子分析を主成分分析によって実施し、回転法はバリマックス回転法を用いた。この結果より、固有値1.0以上の因子を抽出し、質問用紙②については因子負荷量0.6以上の項目、質問用紙③については因子負荷量0.5以上の項目に着目し、因子の命名と解釈をすることにした。この分析により、「表現運動」授業における講義受講者の潜在的観点を探ることとする。なお、結果の統計処理については、K大学発達教育学部の大型電子計算機SPSS統計パッケージを用いた。

<KJ法>

質問用紙①の質問5)ダンスに対するイメージと、質問用紙②、③による講義の感想についての自由記述をKJ法（発想法）によりカテゴリー分けし、観点を見出すことにした。まず、自由記述で書かれている文章を「1事項1カードの原則」により、できるだけ一言に「単位化」（川喜田，1967）したものを紙に記し「カード化」する。「カード化」されているものが、妥当に区切られているかも検討した。次に、この「カード化」したものを、「圧縮化」し、圧縮したグループに見出しをつけることにした。この見出しを、「小カテゴリー」とし、さらに観点を絞るため、小カテゴリーをさらに「圧縮化」し、「大カテゴリー」にグループ化した。

この一連の作業を、筆者とK大学大学院生（表現文化専攻）2名、若しくは、筆者とK大学発達教育学部教育学科 体育ゼミの学生6名で行い、カードを模造紙に「地図化」する作業を行った。これらの分析結果より、得られた「大カテゴリー」と因子分析の抽出因子との関連、また「小カテゴリー」と調査用紙の質問項目との関連から、講義受講者の自己評価の観点を探ることとする。

4. 結果と考察

1) 因子分析の結果 (表2～表8 参照)

講義1回目の授業内容は「リズムダンス」「フォークダンス」であったため、質問用紙②の7項目から因子分析(主成分分析 パリマックス回転法)を行った。これより固有値1.0以上の因子が2つ抽出された。第1因子として、「意欲的な態度」、第2因子として、「動きの構成諸要素への意識」と命名した。

講義2回目の結果より抽出された因子は、質問I(個人の技能についての質問)からは4つ、質問II(グループの技能についての質問)からは5つ得られた。質問Iより得られた、第1因子に「工夫したフレーズを踊る」、第2因子に「仲間との新しい動きの発見・発展」、第3因子に「動きの構成諸要素への意識」、第4因子に「恥ずかしさからの解放」と因子名をつけた。質問IIより得られた、第1因子には「動きの構成諸要素への意識」、第2因子に「表現と伝達性」、第3因子に「作品の工夫」、第4因子に「仲間との意見の出し合い」、第5因子に「仲間との一体感」と因子名をつけた。

講義3回目より抽出された因子は、質問I(個人の技能についての質問)からは4つ、質問II(グループの技能についての質問)からも4つ得られた。質問Iより得られた、第1因子に「表現への没入」、第2因子に「作品の工夫」、第3因子に「動きの構成諸要素への意識」、第4因子に「仲間との新しい動きの発見・発展」と因子名をつけた。質問IIより得られた、第1因子には「動きの構成諸要素への意識」、第2因子に「表現と仲間との一体感」、第3因子に「作品の工夫」、第4因子に「動きの連続」と因子名をつけた。

講義4回目より抽出された因子は、質問I(個人の技能についての質問)からは4つ、質問II(グループの技能についての質問)からは5つ得られた。質問Iより得られた、第1因子に「表現への没入」、第2因子に「動きの構成諸要素への意識(空間性・流動性)」、第3因子に「仲間との新しい動きの発見・発展」、第4因子に「作品の工夫」と因子名をつけた。質問IIより

得られた、第1因子には「表現と作品の工夫」、第2因子に「表現への没入」、第3因子に「仲間との意見の出し合い」、第4因子に「空間の工夫」、第5因子に「表現と仲間との一体感」と因子名をつけた。

2) KJ法の結果 (図1～図4 参照)

まず、因子分析の結果も踏まえ小カテゴリーに分類することにした。そして、その小カテゴリーをさらに大カテゴリーに「圧縮化」できるか試みたところ、4つのカテゴリーが得られた。それが「踊る」「取り組む」「関わる」「分かる」の4つのカテゴリーである。これは、松本ら(1996)の研究より明からになった、ダンスの授業評価構造の因子「おどる・つくる」「とりくむ」「かかわる」「わかる」に、ほぼ似た結果となった。

講義1回目の感想文を分析したところ、大カテゴリーの人数は、「踊る」が62人、「取り組む」が167人、「関わる」が16人、「分かる」が5人という結果になった。この人数は記述の感想文に、カテゴリー名の内容の文が書かれていた人数を数え、どのカテゴリーの感想が多く得られたかを表したものである。

小カテゴリーを見てみると、「踊る」の中には、「空間性」「律動性」「流動性」「達成感」「多様なダンスの体験」の5つのカテゴリーになり、その中でも「空間性」が31人と最も多くの意見が得られ、次いで「律動性」が15人、「流動性」が1人、「達成感」が8人、「ダンスのジャンルの多様性」が17人という結果になった。また、「取り組む」の中では、「楽しさ」「次時への意欲」「爽快感」「ダンスに対する嫌悪感からの解放」「笑顔」の5つのカテゴリーになり、それぞれの人数は、「楽しさ」が74人、「爽快感」が43人、「次時への意欲」が23人、「ダンスに対する嫌悪感からの解放」が20人、「笑顔」が7人、という結果になった。「関わる」の中では、「グループ学習の良さ」「スキンシップ」の2つのカテゴリーになり、それぞれの人数は「グループ学習の良さ」が13人、「スキンシップ」が2人という結果になった。「分かる」の中は、ダンスやダン

ス学習に対する気づきであり、カテゴリーには分けるのは、困難な内容であった。

同様に、講義2回目も分析すると、松本らの研究では「おどる・つくる」「とりくむ」「かかわる」「わかる」の4つのカテゴリーであったが、本研究で得られた結果では「おどる・つくる」の因子が「踊る」「創る」と2つに分けることができる結果となった。大カテゴリーから見ていくと、「踊る」は48人、「創る」が31人、「取り組む」が59人、「関わる」が29人、「分かる」が16人という結果になった。この人数は記述の感想文に、カテゴリー名の内容の文が書かれていた人数を数え、どのカテゴリーの感想が多く得られたかを表すことにした。

小カテゴリーを見てみると、「踊る」の中には、「空間性」「技巧性」「力動性」「律動性」「即興性」の5つのカテゴリーになり、その中でも「空間性」が26人と最も多くの意見が得られ、次いで「技巧性」が8人、「力動性」が7人、「律動性」が5人、「即興性」が2人という結果になった。「創る」のカテゴリーの中も、「動きの多様性」と「独創性」の2つに分けられ、人数としては「動きの多様性」が19人、「独創性」12人という結果になった。また、「取り組む」の中では、「恥ずかしさからの解放」「意欲」「楽しさ」の3つのカテゴリーになり、それぞれの人数は「恥ずかしさからの解放」が42人と最も多く、「意欲」が10人、「楽しさ」が7人という結果になった。「関わる」の中では、「動きの良さの発見」「仲間づくり」「意見の出し合い」「グループの一体感」「グループの独創性」5つのカテゴリーになり、それぞれの人数は「動きの良さの発見」は11人、「仲間づくり」が8人、「意見の出し合い」と「グループの一体感」が4人、「グループの独創性」が2人という結果になった。「分かる」の中も、「ダンスに対する気づき」「ダンス技能についての気づき」「グループ創作に関する気づき」の3つのカテゴリーになり、人数は「ダンスに対する気づき」が7人、「ダンスの技能についての気づき」が4人、「グループ創作に関する気づき」が5人という結果になった。

講義3回目の感想文も同様に、大カテゴリー

からそれぞれの人数を見てみると、「踊る」は47人、「創る」が27人、「取り組む」が38人、「関わる」が27人、「分かる」が20人という結果になった。(図8参照)この人数は記述の感想文に、カテゴリー名の内容の文が書かれていた人数を数え、どのカテゴリーの感想が多く得られたかを表すことにした。

小カテゴリーを見てみると、「踊る」の中には、「空間性」「表現への没入」「力動性」「技巧性」「動きのパターン化と習得」の5つのカテゴリーになり、その中でも「空間性」が24人と最も多くの意見が得られ、次いで「表現への没入」が12人、「力動性」が6人、「技巧性」が5人、「動きのパターン化と習得」が3人という結果になった。「創る」のカテゴリーの中も、「動きの多様性」「作品の工夫」「独創性」の3つに分けられ、人数としては「動きの多様性」が10人、「作品の工夫」が9人、「独創性」が8人という結果になった。また、「取り組む」の大カテゴリーでは、「恥ずかしさからの解放」「意欲」の2つの小カテゴリーになり、それぞれの人数は「恥ずかしさからの解放」が31人と最も多く、「楽しさ」が7人という結果になった。「関わる」の中では、「仲間の意見への理解」「グループの一体感」「グループの独創性」の3つの小カテゴリーになり、それぞれの人数は「仲間の意見への理解」は18人、「グループの一体感」が6人、「グループの独創性」が3人という結果になった。「分かる」の中も、「ダンスの技能についての気づき」「ダンスに対する気づき」「グループ創作に関する気づき」の3つの小カテゴリーになり、人数は「ダンスの技能についての気づき」が10人、「ダンスに対する気づき」が5人、「グループ創作に関する気づき」が5人という結果になった。

講義4回目の感想文も同様に、大カテゴリーからそれぞれの人数を見てみると、「踊る」は71人、「創る」が39人、「取り組む」が59人、「関わる」が34人、「分かる」が38人という結果になった。

小カテゴリーを見てみると、「踊る」の中には、「空間性」「表現への没入」「動きのパターン化

と習得」,「律動性」,「力動性」,「技巧性」,「速度性」の7つの小カテゴリーに細かく分けられることになったが,意見が得られた人数よりも学習者の観点を得ることを中心としたため,人数が少なくとも小カテゴリーとしてつくることにした。人数の結果は,「空間性」が30人と最も多くの意見が得られ,次いで「表現への没入」が17人,「動きのパターン化と習得」が9人,「律動性」と「力動性」が共に6人,「技巧性」が2人,「時間性」が1人という結果になった。「創る」のカテゴリーの中も,「動きの多様性」,「作品の工夫」,「独創性」の3つに分けられ,人数としては「動きの多様性」が20人,「作品の工夫」が11人,「独創性」が8人という結果になった。また,「取り組む」の大カテゴリーでは,「恥ずかしさからの解放」「意欲」の2つの小カテゴリーになり,それぞれの人数は「恥ずかしさからの解放」が37人と最も多く,「意欲」が22人という結果になった。「関わる」の中では,「グループの一体感」,「仲間の意見への理解」,「作品の工夫」,「仲間づくり」,「動きの良さの発見」,「グループの独創性」の6つの小カテゴリーになり,それぞれの人数は「グループの一体感」が10人,「仲間の意見への理解」と「作品の工夫」は共に6人,「仲間づくり」と「動きの良さの発見」は共に5人,「グループの独創性」が2人という結果になった。「分かる」の中も,「教材の工夫に対する気づき」,「ダンスに対する気づき」,「自分の体への気づき」の3つの小カテゴリーになり,人数は「教材の工夫に関する気づき」が18人,「ダンスに対する気づき」が17人,「自分の体への気づき」が3人という結果になった。

3) 考察

因子分析の結果から講義の1, 2回目では,自分が踊ること,つまり個人的な技術に,集中的に意識した傾向が見られた。講義の回数が増えてきた, 3, 4回目になると,「表現」の内容が中心になることから,主題(テーマ)にそった踊りや表現にするには,どのようにしたら良いかという,作品への意識や,仲間との関

わり合いについての意識も見られた。また,講義の回数をおうごとに,個人的な観点と集団的な観点を焦点が合う傾向になることが,分かった。授業内容によっても,「イメージ課題」の授業内容と,「運動課題」の授業内容では,観点到に差異が見られた。イメージ課題の方は,動物などの共通のイメージを持ちやすい課題であったため,表現に没入しやすかったこと,運動課題では,「表現の没入」は勿論ではあるが,「走る-止まる」の対極の動きの提示が,あらかじめされていることから,「動きの構成諸要素への意識」の観点は,さらに視点が絞られた観点になったと考えられる。

授業後の感想文をKJ法で分類した結果からは,因子分析の結果と同様,講義1回目では,「リズムダンス」と「フォークダンス」が授業内容ということもあり,音楽に合わせて,楽しく踊ったことに集中して,意識している傾向が見られた。講義2回目では,講義1回目よりも「表現」の内容が,新たに入ったため,「創る」のカテゴリーが追加され,自分で動きを提示する場面も増えたことが考えられる。講義3, 4回目と回をおうごとに,踊ることの個人の技能とともに,ダンスを創るという技能の観点も現れる傾向が,見られた。また,小カテゴリーに「独創性」という,個性を出せたという成果の観点が得られたことから,「表現」という学習内容が,学習者の個性が発揮される学習内容であることも,改めて確認できる。さらに,回をおうごとに感想文からの観点も,カテゴリーとして「圧縮化」しやすく,観点がまとまっていたが,観点の数が多く,感想文だけから観点を探ることは,難しいと考える。

これらの結果から,講義1回目での学習者は,ダンスに対する「意欲」や「楽しさ」の観点を,「リズムダンス」と「フォークダンス」の学習内容から,意識したのではないかと,考えられた。講義2回目では,「表現」の学習内容が,少し加わり,「技巧性」や「独創性」のような,主題(テーマ)のある動きを考え,こまかい動きはできたようではあるが,「思いきり」や「体全体を使って」などのような,ダイナミック

(力動性)や空間性を生かした動きは、難しかったのではないかと、抽出因子で考えられた。しかし、感想文のみでは、思いきり体を使えたという成果が考察でき、抽出因子と差異が見られたことから、自由記述の感想文で、学習者の詳細な視点が、読み取れるという利点が考えられるが、質問項目の内容を参考に、記述している可能性があるという、短所も考えられる。このことから、因子分析から抽出された潜在因子を、基に、評価票の質問項目を再検討することが、妥当ではないかと考えられた。また、講義3回目から、「表現」の内容が中心となったため、講義3、4回目では、質問Ⅰの項目は、感想文からの観点である、「関わる」のカテゴリーには、1つの項目しかあげられなかったことと、質問Ⅱの項目を感想文の観点のカテゴリーに該当させたところ、「取りくむ」や「関わる」のカテゴリーに該当させることに、熟考を必要とした。このことから、感想文による文章での表現は、観点が多面的であり、「関わる」のカテゴリーの中にも、「踊る」「創る」「取りくむ」のカテゴリーに分類されることが考えられ、感想文からは、多面的な観点を、平面的に読み取ることしかできないのではないかと考えられた。本研究で用いた、調査質問用紙で、個人としての成果を問う質問用紙と、グループ(集団)としての成果を問う質問用紙に、分けて作成し、分析したことで、そのことが明らかになったのではないかと、考える。よって、評価票を再検討する際にも、個人の成果を問う評価票とグループ(集団)の成果を問う評価票を作成することを、試みる。

5. まとめ

1) 研究のまとめと評価票の検討

本研究は、教員養成系大学K大学 発達教育学部で開講されている、小学校教員免許取得必修科目の体育科教育方法論「表現運動」領域の講義を、受講している大学生、女子138名を対象に、調査質問用紙を筆者が作成し、質問紙法により調査(毎授業後)を行うことにした。その結果から、「表現運動」授業を受講した学習者の観

点を探ることを目的とし、「表現運動」授業のための評価票を作成することを試みた。

結果から、1回目の授業内容は「リズムダンス」「フォークダンス」であり、音楽のリズムに乗って元気に楽しく踊る観点が中心であった。2回目より、「表現」の授業内容が、加わったことから、こまかい動きに注意するダンス技術の観点に加え、主題(テーマ)に没入しようという観点が見られた。しかしこれにより、ダイナミックに体全体を使って動くダンス技術に関する、観点への意識が薄れる傾向になることが認められた。3回、4回と「表現」の回数が重なるにつれ、主題に合わせた、動きの提示とそのダンス技術を意識する傾向になることが考察できた。また、質問項目を、個人と集団とに分けた結果、自由記述の感想文では漠然としていた観点が、因子分析によって観点がより集約できた。そして、これらの観点は、実践した具体的な授業内容が大きく影響していることが分かった。

上記で述べてきた結果をもとに本研究では、「表現運動」授業のための評価票を、作成することを試みる。本研究の対象授業で、実施された学習内容との関連もふまえ、授業内容に即した評価票を目指すものとする。また、本研究で、作成した調査質問用紙と同様に、個人の成果と、集団での成果を分けることにより、より詳細な学習者の技能の伸びや躓きなどを、直ちに見極める手がかりとして、評価票の作成を試みることにする。作成する評価票は、次の通りである。

- ①「リズムダンス」・「フォークダンス」授業のための評価票
- ②授業の前半に「リズムダンス・フォークダンス」、後半に「表現」の授業した場合の評価票(個人用)
- ③授業の前半に「リズムダンス・フォークダンス」、後半に「表現」の授業した場合の評価票(グループ用)
- ④「表現(イメージ課題)」の授業をした場合の評価票(個人用)
- ⑤「表現(イメージ課題)」の授業をした場合の評価票(グループ用)

⑥「表現（運動課題）」の授業をした場合の評価票（個人用）

⑦「表現（運動課題）」の授業をした場合の評価票（グループ用）

質問項目の選定は、主に、本研究の因子分析により抽出された観点と、因子負荷量の数値が高かったものと、感想文のKJ法によるカテゴリーの分類により、得られた観点から、筆者が必要と思われたものを、質問項目として、筆者が検討し、加筆する。これらの評価票の使用方法としては、グループ用の評価票は、ダンスの創作を授業時間で行った場合のみ使用が可能であり、個人に1枚ずつ配布することも、グループに1枚配布することも、どちらの手法でも使用が可能である。グループごとに実施すると、各グループの評価の観点がだまかに知る手がかりになり、個人ごとに実施すると、グループごとに分析することによって、グループで共通の観点が持てたか否かの手がかりにもなると考える。分析方法は、「はい」が3点、「どちらでもない」2点、「いいえ」に1点の点数を配当し、学習者が回答した評価票から、数値を算出する。これを、授業を受けた人数で割り、平均を出すことで、観点ごとの評価や、学習者の躓きの手がかりとなると、考える。但し、数値だけで、技能の伸びや成果が得られていると、考察するのは、安易であり、あくまでこの評価票は、「表現運動」授業で、学習者がどのような点を意識して、踊ったり、ダンスを創作したりしているかを、感想文よりも詳しく知ることができる、手段の一つとして提示したものである。

2) 今後の課題

本研究では、筆者が作成した調査質問用紙からの、量的分析と質的分析の両面から、「表現運動」授業での、学習者の自己評価の観点を探ることを目的とし、より良い「表現運動」のための、評価票を作成することを試みた。

しかし、本研究では、対象者が大学生であったことと、全員女子であったことは、事例として乏しい点である。今後、より実践的な、小学生・中学生・高校生の男女を対象とした、評価

票の作成の試みが必要であり、そのためには、さらなる「表現運動」授業に適應した、質問内容の再検討や、文言の検討が必要である。

そして、評価票だけでなく、学習者の動きから読み取る、実際的な評価法の検討も必要であると、筆者は考える。実際の動きからの評価と、本研究で作成した、評価票のような心的な評価との関連により、さらに多面的な角度から評価することが、可能になると考えるからである。

「表現運動」は、創造的な活動が伴うために、評価が難しいとされているだけに、具体的な評価の方法を提示した研究は、まだまだ少ないように感じられる。今後、より良い「表現運動」授業の評価法を見出すためにも、多くの実践的な事例研究が行われることを望む。

<引用参考文献>

- ・相場了, 山田敦子, 栗原知子 (1992, 6) 「ダンスの教育学 第2巻 表現運動の学習」徳間書店
- ・内田尚子 (1989, 3) 「舞踊課題学習における学習者の意識の変容—「表現」に対する意識を中心として—」筑波大学大学院修士課程 体育研究科 体育方法学修士論文
- ・川口千代 (1980) 「表現運動, ダンスの評価の観点」第一法規出版『健康と体力』文部省体育局監修 第12巻第2号
- ・川口千代 (1985, 1) 「舞踊学研究が教える現場実践への提言」『体育の科学』vol. 35 No. 1
- ・川口千代 (1990, 4) 「小学校体育実践指導全集 5巻—表現運動」日本教育図書センター
- ・川口千代, 高野章子, 本田郁子 編 (1992, 2) 「ダンスの教育学 第6巻 全国の研究・実践事例」徳間書店
- ・川口千代 (2005, 9) 「生き生きと豊かに表現運動を楽しむ小学校教師を目指して」日本女子体育連盟「女子体育」第47巻 第9号
- ・川喜田二郎 (1967) 「発想法」中央公論社
- ・菅民郎 (1998) 「アンケートデータの分析」現代数学社
- ・桑原直子 (2002, 4) 「個の力を生かし伸ばす表現運動の指導—個々の動きから豊かなグループ表現へ—千葉大学長期研究生 研究報告書
- ・小林篤 (1978) 「体育の授業研究」大修館書店
- ・柴真理子, 塩瀬順子 (1991) 「創作ダンスへの接近の構造—小学校教員養成課程における『舞踊課題』学習を事例として」神戸大学教育学部紀要85, pp. 107-121
- ・関岡康雄, 川口千代他 (2004) 「高校生のスポーツ」学習研究社

- ・関口進 (2001, 12) 「大衆娯楽と文化」学文社
- ・高橋健夫 (1989, 4) 「新しい体育の授業研究」大修館書店
- ・高橋健夫, 長谷川悦示, 刈谷三郎 (1994) 「体育授業の『形成的評価法』の試み」体育学研究: 39, pp. 29-47
- ・高橋健夫, 岡出美則, 友添秀則, 岩田靖 (2002, 4) 「体育科教育学入門」大修館書店
- ・高橋健夫, 松本富子他 (2003, 10) 「体育授業を観察評価する—授業改善のためのオーセンティック・アセスメント」明和出版
- ・長谷川悦示, 高橋健夫, 浦井孝夫, 松本富子 (1995) 「小学校の体育授業の形成的授業評価票及び診断基準作成の試み」スポーツ教育学研究 14(2): 91-101
- ・藤竹暁 (2005, 9) 「日本のマスメディア 第2版」日本放送出版協会
- ・松田岩男, 宇土正彦 (1985, 4) 「現代の体育理論」大修館書店
- ・松本千代栄 (1980, 9) 「ダンス・表現学習指導全書」大修館書店
- ・松本富子, 安村清美, 島内敏子, 高野章子, 宮本乙女 (1992, 2) 「ダンスの教育学 第3巻 創作ダンスと基本的段階」徳間書店
- ・松本富子, 高橋健夫, 長谷川悦示 (1996) 「子どもからみたダンス授業評価の構造—中学校創作ダンス授業に対する評価の分析から—」スポーツ教育学研究 16(1): pp. 47-54
- ・水谷光 (1975, 10) 「ダンス指導のハンドブック」大修館書店
- ・文部省 (1999, 5) 「小学校学習指導要領解説 体育編」東山書房
- ・ルドルフ・ラバン著 須藤智恵, 秋葉尋子 訳 (1972, 10) 「現代の教育舞踊」明治図書刊
- ・M. N.ドゥブラー著 松本千代栄 訳 (1974, 2) 「舞踊学原論」大修館書店
- ・S. Kランガー著 大久保直幹, 長田光展, 塚本利明, 柳内茂雄 (1971, 3) 「感情と形式 I, II」太陽社

〈資料1：舞踊経験に関する質問用紙 資料2：ダンス授業での質問用紙（「リズムダンス」・「フォークダンス」用）〉

＜ダンス経験に関する質問用紙＞

学部・専攻名（ ） 学籍番号（ ） 氏名（ ）

I. あなたのダンス経験について質問します。

ー以下の質問に記述でお答え下さい。

時期	0歳～6歳 (就学前)	7歳～12歳 (小学校)	13歳～15歳 (中学校)	16歳～18歳 (高校)	19歳以上 (大学)
1) 学校の授業で経験したダンスは、どのようなものでしたか。					
2) 学校のクラブで経験したダンスは、どのようなものでしたか。					
3) 学校以外で、経験したダンスは、どのようなものですか。					
4) ダンスを人前で発表した経験がある方は、どこで、どのようなダンスを発表しましたか。					

5) 現在、あなたが持つ、ダンスに対するイメージを簡単にお答え下さい。

＜ダンス授業に関する質問用紙＞

学部・専攻名（ ） 学籍番号（ ） 氏名（ ）

* この調査は、ダンス授業の受講者を対象に行っているものです。ダンス授業を受けて、受講者が自分のダンスに対して、どのように自己評価するか調査するものです。

* 調査結果や調査から得た情報は、研究目的以外の用途には使用いたしません。また、成績などにも全く関係はありませんので、安心して率直にお答え下さい。

* 以下の質問用紙に於いての「ダンス」は、文部科学省 小・中・高等学校学習指導要領による「リズムダンス（現代的なリズムのダンス）」「フォークダンス」「表現（創作ダンス）」の総称と致します。

I. 今日のダンス授業でのあなたの学習について質問します。

ー以下の質問に五段階で○印をつけて下さい。

非常に思う 思う どちらでもない 思わない 全く思わない

- 楽しく受講することができた。
- 音楽のリズムに乗って踊った。
- 大きく・小さくなど、体全体を使って踊った。
- 流れがあるように動きに工夫した。
- 広く・狭くなど、場所を広く使った。
- 今日の課題に意欲的に取り組みましたか。
- 自分らしさを発揮できましたか。

II. 今日の授業の感想を簡単にお書き下さい。

「表現運動」の特性をふまえた評価票の提案

〈資料3：ダンス授業での表現に関する質問用紙（個人用）〉

＜ダンス授業での表現に関する質問用紙＞

学部・専攻名（ ） 学籍番号（ ） 氏名（ ）

- * この調査は、ダンス授業の受講者を対象に行っているものです。ダンス授業を受けて、受講者が自分のダンスや創作した表現についてどのように自己評価するか調査するものです。
- * 調査結果や情報は、研究以外の用途には使用いたしません。また、成績などにも全く関係はありませんので、安心して率直にお答え下さい。
- * 本調査では、「ダンス」を文部科学省 小・中・高等学校学習指導要領による「リズムダンス（現代的なリズムのダンス）」「フォークダンス」「表現（創作ダンス）」の総称と致します。

I. ダンス授業でのあなた自身の表現について質問します。

—以下の質問について五段階で○印をつけて下さい。

非 常 に 思 う	思 う	ど ち ら だ も な い	思 わ な い	全 く 思 わ な い
-----------------------	--------	---------------------------------	------------------	----------------------------

1. 音楽のリズムに乗って踊った。

--	--	--	--	--

2. 遅い・速いなど、速度に変化をつけて踊った。

--	--	--	--	--

3. 強い・弱いなど、アクセントをつけて踊った。

--	--	--	--	--

4. 大きく・小さくなど、体全体を使って踊った。

--	--	--	--	--

5. 広く・狭くなど、場所を広く使った。

--	--	--	--	--

6. 流れがあるように踊った。

--	--	--	--	--

7. 簡単な動きを組み合わせて作品を工夫した。

--	--	--	--	--

8. 複雑な動きに作品を工夫した。

--	--	--	--	--

9. 集団の構成で作品を工夫した。

--	--	--	--	--

10. 場面変化があるように作品を工夫した。

--	--	--	--	--

11. 表現のテーマにそって動きを考えた。

--	--	--	--	--

12. 表現のテーマを工夫して考えた。

--	--	--	--	--

13. 音楽を工夫して選曲した。

--	--	--	--	--

14. なりきって表現した。

--	--	--	--	--

15. こまかい動きに注意して表現した。

--	--	--	--	--

16. 見ている人に伝わるように表現した。

--	--	--	--	--

17. 練習の成果ができるように、一生懸命に表現した。

--	--	--	--	--

18. 自分らしさが発揮できた。

--	--	--	--	--

19. 恥ずかしがらずに取り組めた。

--	--	--	--	--

20. 友達の意見を参考に動きを発展させることができた。

--	--	--	--	--

21. 友達から新しい動きやイメージを見つけることができた。

--	--	--	--	--

22. 自分から積極的に取り組めた。

--	--	--	--	--

23. 色々な表現ができることが分かった。

--	--	--	--	--

24. 人によって感じ方・考え方が違うことが分かった。

--	--	--	--	--

〈資料4：ダンス授業での表現に関する質問用紙（グループ用）〉

Ⅱ. ダンス授業でのあなたのグループの表現について質問します。
 -以下の質問について五段階で○印をつけて下さい。

非常
に思
う
思
う
ど
ち
ら
だ
も
な
い
思
わ
な
い
全
く
思
わ
な
い

- 1. 音楽のリズムに乗ってみんなで踊った。
- 2. 速い・遅いなど、速度に変化をつけてみんなで踊った。
- 3. 強い・弱いなど、アクセントをつけてみんなで踊った。
- 4. 大きく・小さくなど、体全体を使ってみんなで踊った。
- 5. 広く・狭くなど、みんなで場所を広く使った。
- 6. 流れのあるようにみんなで踊った。
- 7. 簡単な動きを組み合わせて、みんなで作品を工夫した。
- 8. 複雑な動きに、みんなで作品を工夫した。
- 9. みんなで集団の構成を工夫した。
- 10. 場面変化があるように、みんなで作品を工夫した。
- 11. 表現のテーマにそって、みんなで動きを考えた。
- 12. みんなで、表現のテーマを工夫して考えた。
- 13. みんなで、音楽を工夫して選曲した。
- 14. みんなで、なりきって表現した。
- 15. みんなで、こまかい動きに注意して表現した。
- 16. みんなで、見ている人に伝わるように表現した。

- 17. みんなで、練習の成果ができるように、一生懸命に表現した。
- 18. グループならではの表現ができた。
- 19. みんなで、仲良く踊れた。
- 20. みんなで、気持ちを一つにして踊れた。
- 21. めあてに向かってみんなで練習した。
- 22. 意見を出し合って動きを考えた。
- 23. 自分の意見をグループに取り入れられた。
- 24. グループのみんなで見え方を聞き合った。
- 25. 他のグループの表現の良さを見つけた。

Ⅲ. 前回の授業と比べて、自分のダンスや表現が変わったと思うところはあるか。どのような点だと思いますか。記述で簡単にお答え下さい。

[]

Ⅳ. 今日の授業の感想を簡単にお書き下さい。

[]

ご協力有難うございました。

〈表1：動きの構成諸要素〉

動きの空間性 動きのデザイン スペースデザイン(踊跡) 曲線・直線、拡大・縮小、方向	動きのデザイン…からだの形態は、一見左右対称の形であるが、動きのデザインを考えたとき、四肢、体幹を駆使しての動きは、動き方や表現によって限らない変化を生む。直接的な動きは、鋭い・硬い・張りつめた感じを表し、曲線的な動きは、なめらか・和やか・流麗な感じの表現につながる。
動きの時間性 リズム(規則性・不規則性) テンポ(遅・速い)	動きのリズム…リズムカルな身体運動を用いて行われるダンスにとって、リズムはその生命である。リズムには規則性と不規則性(変則的)なものがある。前者は調子によって律動感を与え、後者は間合いのリズムによって複雑な表現の幅を広げる。
動きの力動性(ダイナミクス) 強・弱 人的要因(個と集団) 集団・離散、分割、線	力性の変化…作品を印象づけるものとして、力性の変化が作品のまとまりとの関係で重要である。力性の変化のつけ方によって作品の表現性が異なって感じられるからである。よい作品には、人の心をひきつけ、感情の高まりを感じさせる盛り上がりが見られる。作品の内容によって力の変化のつけ方を工夫することが大切である。変化のさせ方には次のようなものがある。 ・漸次的変化 ・急激的变化 ・持続的变化

(「高校生のスポーツ 総合版」川口(2004)より引用)

〈表2：授業1回目受講後の調査(質問Ⅱ)より得られた、抽出因子〉

因子番号	因子名	質問	
1	意欲的な態度	1) 楽しく受講することができた	0.840
		6) 今日の課題に意欲的に取り組みましたか	0.811
		2) 音楽のリズムに乗って踊った	0.675
2	動きの構成諸要素への意識	4) 流れがあるように動きを工夫した	0.729
		5) 広く・狭くなど、場所を広く使った	0.698
		3) 大きく・小さくなど、体全体を使って踊った	0.657

「表現運動」の特性をふまえた評価票の提案

＜表3：授業2回目受講後の調査（質問Ⅰ）より得られた，抽出因子＞

因子番号	因子名	質問	因子得点
1	工夫したフレーズを踊る	6) 流れがあるように踊った	0.742
		8) 複雑な動きに作品を工夫した	0.710
		15) こまかい動きに注意して表現した	0.589
		21) 友達から新しい動きやイメージを見つけることができた	0.677
2	仲間との新しい動きの発見・発展	20) 友達の意見を参考に動きを発展させることができた	0.596
		22) 自分から積極的に取り組めた	0.542
3	動きの構成諸要素への意識	3) 強い・弱いなど，アクセントをつけて踊った	0.783
		2) 速い・速いなど，速度に変化をつけて踊った	0.504
4	恥ずかしさからの解放	19) 恥ずかしがらずに取り組めた	0.776
		18) 自分らしき発揮できた	0.566

＜表4：授業2回目受講後の調査（質問Ⅱ）より得られた，抽出因子＞

因子番号	因子名	質問	因子得点
1	動きの構成諸要素への意識	2) 速い・速いなど，速度に変化をつけてみんなで踊った	0.710
		3) 強い・弱いなど，アクセントをつけてみんなで踊った	0.696
		1) 音楽のリズムに乗ってみんなで踊った	0.683
		4) 大きく・小さくなど，体全体を使ってみんなで踊った	0.590
2	表現と伝達性	15) みんなで，こまかい動きに注意して表現した	0.656
		16) みんなで，見ている人に伝わるように表現した	0.638
		25) 他のグループの良さを見つけた	0.566
3	作品の工夫	9) みんなで集団の構成を工夫した	0.682
		22) 意見を出し合っって動きを考えた	0.592
		8) 複雑な動きに，みんなで作品を工夫した	0.540
4	仲間との意見の出し合い	10) 場面変化があるように，みんなで作品を工夫した	0.533
		23) 自分の意見をグループに取り入れられた	0.558
5	仲間との一体感	24) グループのみんなで意見を聞き合った	0.555
		19) みんなで，仲良く踊れた	0.660
		20) みんなで，気持ちを一つにして踊れた	0.600

＜表5：授業3回目受講後の調査（質問Ⅰ）より得られた，抽出因子＞

因子番号	因子名	質問	因子得点
1	表現への没入	14) なりきって表現した	0.760
		19) 恥ずかしがらずに取り組めた	0.621
		22) 自分から積極的に取り組めた	0.597
2	作品の工夫	9) 集団の構成で作品を工夫した	0.718
		7) 簡単な動きを組み合わせて作品を工夫した	0.643
		10) 場面変化があるように作品を工夫した	0.509
3	動きの構成諸要素への意識	4) 大きく・小さくなど，体全体を使って踊った	0.587
		2) 速い・速いなど，速度に変化をつけて踊った	0.579
		3) 強い・弱いなど，アクセントをつけて踊った	0.515
4	仲間との新しい動きの発見・発展	1) 音楽のリズムに乗って踊った	0.507
		20) 友達の意見を参考に動きを発展させることができた	0.753
		21) 友達から新しい動きやイメージを見つけることができた	0.700

＜表6：授業3回目受講後の調査（質問Ⅱ）より得られた，抽出因子＞

因子番号	因子名	質問	因子得点
1	動きの構成諸要素への意識	2) 速い・速いなど，速度に変化をつけてみんなで踊った	0.779
		3) 強い・弱いなど，アクセントをつけてみんなで踊った	0.671
		4) 大きく・小さくなど，体全体を使ってみんなで踊った	0.655
		1) 音楽のリズムに乗ってみんなで踊った	0.632
2	表現と仲間との一体感	19) みんなで仲良く踊れた	0.802
		18) グループならではの表現ができた	0.649
		14) みんなで，なりきって表現した	0.565
3	作品の工夫	20) みんなで，気持ちを一つにして踊れた	0.562
		8) 複雑な動きに，みんなで作品を工夫した	0.624
		10) 場面変化があるように，みんなで作品を工夫した	0.602
4	動きの連続感	12) みんなで，表現のテーマを工夫して考えた	0.576
		9) みんなで集団の構成を工夫した	0.563
		6) 流れがあるようにみんなで踊った	0.752
		5) 広く・狭くなど，みんなで場所を広く使った	0.573

＜表7：授業4回目受講後の調査（質問Ⅰ）より得られた，抽出因子＞

因子番号	因子名	質問	因子得点
1	表現への没入	19) 恥ずかしがらずに取り組めた	0.753
		2) 速い・速いなど，速度に変化をつけて踊った	0.683
		1) 音楽のリズムに乗って踊った	0.674
2	動きの構成諸要素への意識（空間性と流動性）	14) なりきって表現した	0.634
		6) 流れがあるように踊った	0.665
3	仲間との新しい動きの発見・発展	5) 広く・狭くなど，場所を広く使った	0.593
		20) 友達の意見を参考に動きを発展させることができた	0.780
		21) 友達から新しい動きやイメージを見つけることができた	0.745
4	作品の工夫	23) 色々な表現ができることが分かった	0.527
		24) 人によって感じ方・考え方が違うことが分かった	0.526
		12) 表現のテーマを工夫して考えた	0.675
		10) 場面変化があるように作品を工夫した	0.654
		8) 複雑な動きに作品を工夫した	0.617

＜表8：授業4回目受講後の調査（質問Ⅱ）より得られた，抽出因子＞

因子番号	因子名	質問	因子得点
1	表現と作品の工夫	9) みんなで集団の構成で作品を工夫した	0.722
		11) 表現のテーマにそって，みんなで動きを考えた	0.691
		8) 複雑な動きに，みんなで作品を工夫した	0.658
		10) 場面変化があるように，みんなで作品を工夫した	0.653
2	表現への没入	12) みんなで，表現のテーマを工夫して考えた	0.625
		2) 速い・速いなど速度に変化をつけてみんなで踊った	0.647
3	仲間との意見の出し合い	18) グループならではの表現ができた	0.601
		14) みんなで，なりきって表現した	0.532
		17) みんなで，練習の成果ができるように，一生懸命表現した	0.525
4	空間の工夫	24) グループのみんなで意見を聞き合った	0.740
		23) 自分の意見をグループに取り入れられた	0.717
		22) 意見を出し合っって動きを考えた	0.642
5	表現と仲間との一体感	5) 広く・狭くなど，みんなで場所を広く使った	0.694
		6) 流れがあるようにみんなで踊った	0.561
		4) 大きく・小さくなど，体全体を使ってみんなで踊った	0.536
		20) みんなで，気持ちを一つにして踊れた	0.653
		15) みんなで，こまかい動きに注意して表現した	0.595

踊る(62人)

空間性(31人) めいっぱい体を動かして踊った
体全体を動かして踊った時のびのびと表現するのが難しかった。

律動性(15人) 音楽に合わせてリズムよくできた。

流動性(1人) スムーズにいろんな踊りができた。

達成感(8人) 自分にもできたという喜びを味わえた。

多様なダンスの体験(17人) いろんなダンスができてよかった。
→フォークダンスが楽しかった(9人)
リズムダンスが楽しかった(1人)
→リズムダンスが難しかった(1人)

分かる(5人)

単純な動きの組み合わせでも、あんな楽しいダンスになることに驚いた。
音楽があればどこでもすぐに踊れることが分かった。
誰もが楽しめるダンスだった。
ダンスは、心も体も元気にさせる運動だと感じた。
ダンスは、自分を出せていいと思った。

取りくむ(167人)

楽しさ(74人) とても楽しかった。少し疲れた。踊るのに一生懸命になってしまった。
時間が過ぎるのが早く感じた。

次時への意欲(23人) 次回の授業も楽しみたいです。

爽快感(43人) いっぱい汗をかいた。いい運動になった。
気持ちよくなった。

ダンスに対する嫌悪感からの解放(20人) (リズム感がないので)ダンスは大嫌いでしたが、今日は凄く楽しかった。

笑顔(7人) 笑顔で踊れた。

関わる(16人)

グループ学習の良さ(13人) みんなでやると気持ちが解れた。

スキンシップ(3人) 全く知らない友だちと、手をつないだりして、仲良くなった。

<図1：講義1回目の感想文をKJ法によりカテゴリー分けした結果>

踊る(48人)

空間性(26人)

体全体を使って表現できました。(ボディデザイン)
もっと広い範囲を動き回った。(スペースデザイン)

技巧性(8人)

動きに気をつけられるようになった。
動きをきれいにできるようにこころがけた。

力動性(7人)

思い切って踊れた。
のびのびと踊れるようになった。

律動性(5人)

楽しくリズムに乗って踊ることができた。
リズムに乗れて上手い・下手関係なく、踊ることができた。

即興性(2人)

ぱっと思いついたものをすぐに表現することができた。

創る(31人)

動きの多様性(19人)

いろんな表現の仕方を身につけることができた。
自分達で考える動きがたくさんあった。

独創性(12人)

自分らしさを体で表現できた。

取りくむ(59人)

恥ずかしさからの解放(42人)

恥ずかしがらずに自分を出せたと思う。
動きに抵抗がなくなってきた。

意欲(10人)

積極的に取りくめた。
元気に踊れた。

楽しさ(7人)

ダンスに夢中になり、時間がたつのを忘れるほど、無邪気に踊った。

関わる(29人)

(仲間の)動きの良さの発見(11人)

他の人のよいところを見つけて取り入れることができた。

他のグループの良いところも発見した。

仲間づくり(8人)

あまり知らない友達と関わることができた。

意見の出し合い(4人)

ダンスに一人一人のアイデアを加えた。

グループの一体感(4人)

グループで一つになって踊った。

グループの独創性(2人)

グループならではの動きができた。

分かる(16人)

ダンスに対する気づき(7人)

ダンスは難しいものだと思っていたけど、実際はとても簡単で楽しいものだ分かった。

ダンスの技能についての気づき(4人)

1つのことを表現するのにも本当にたくさんの方があることを知った。

グループ制作に関する気づき(5人)

集団で踊ることの大切さや表現が分かった。

<図2：講義2回目の感想文をKJ法によりカテゴリー分けした結果>

踊る (47人)

空間性 (24人)

大小のメリハリをつけて表現できた。
(ボディデザイン)
部屋いっぱい使って踊れるようになった。
(スペースデザイン)

表現への投入 (12人)

我を忘れて表現することができた。
なりきって表現することができた。

力動性 (6人)

アクセントをつけられるようになった。
動きにメリハリがついてきた。

技巧性 (5人)

細かい動きにも気がついた。
表現が細かいところまでできるようになった。

動きのパターン化と習得 (3人)

ステップを覚えるのが早くなった。

取り組む (38人)

恥ずかしさからの解放 (31人)

恥ずかしがらずに体で表現できた。
思い切り踊ることができた。
のびのびと踊れるようになった。
声を出して表現できた。
自然に体が動くようになってきた。

意欲 (7人)

積極的に取り組めた。
自分から積極的に動けた。
体を使って表現することを楽しめた。

関わる (27人)

仲間の意見への理解 (18人)

グループのみんなとよく話し合っただめた。
みんなで意見を交換し合えた。
人の表現を見て自分に取り入れたり、感心したりすることができた。

グループの一体感 (6人)

大きな集団で楽しく踊ることができた。
みんなで一つのテーマに沿って表現した。

グループの独自性 (3人)

自分たちならではの表現ができた。

創る (27人)

動きの多様性 (10人)

表現の仕方の幅が広がった。
色々な表現をする力が身についた。

作品の工夫 (9人)

構成を考えられるようになった。
テーマにそって表現できた。

独自性 (8人)

他の人とは違うポイントを創った。
人任せでなく、自分で考えた。

分かる (20人)

ダンスの技能についての気づき (10人)

体全体で表現することでよく伝わるようになりました。
表現の仕方のコツがだんだんつかめてきた。

ダンスに対する気づき (5人)

ダンスは上手い、下手関係なく楽しくやっていたら楽しくなることが分かった。
ダンスにも声を出したり、歌を取り入れたりすることでさらに動きに変化がつけられることが分かった。

グループ制作に関する気づき (5人)

グループで意見を出し合ったので、表現の仕方がたくさん分かった。
違う友達としたので、また別の表現の仕方を発見できました。

<図3：講義3回目の感想文をKJ法によりカテゴリー分けした結果>

踊る (71人)

空間性(30人)

大きく踊ることに意識して踊れるようになった。
と思う。 (ボディデザイン)

場所を広く使ってのびのびと動けて楽しかった。
(スペースデザイン)

表現への没入(17人)

キャラクターになりきってその登場人物の
特徴を表現できた。

動きのパターン化と習得(9人)

前回踊ったフォークダンスなど
少し忘れていました。

律動性(6人)

手も動かしながら、リズムよくできた。
音楽にあわせて踊れました。

力動性(6人)

動きに激しさやメリハリがつくようになったと思
う。

技巧性(2人)

細かい動きを取り入れて表現できた。
体の動きに気がつけた。

時間性(1人)

遅い・速いなど速さを工夫して、踊ることができた。

取り組む (59人)

恥ずかしさからの解放(37人)

今までで一番恥ずかしながらに思いっきり表現できた。
回数を重ねるごとに恥ずかしさがなくなり、思いっきり
表現できた。

やる度にどんどん体をのびのび使ってできるような気が
します。

思い切り声も出して表現できたので良かった。

意欲(22人)

一生懸命取り組むことができた。

ずっと笑顔でダンスできた。

ダンスは音楽によって踊ればいいのではなく、楽しもう
という気持ちが大切だと思った。

関わる (34人)

グループの一体感(10人)

みんなと気持ちを一つにして取り組めた。

仲間の意見への理解(6人)

考えにそれぞれ違いがあるので楽しかった。

作品の工夫(6人)

自分達で何になるかストー
リーを考えるのが楽しかった。

仲間づくり(5人)

新しい人との交流ができ
て見方が色々変わりました。

動きの良さの発見(5人)

友達との表現の仕方が上手だなと思った。

グループの独創性(2人)

他のグループとは違った動きができたと思います。

創る (39人)

動きの多様性(20人)

だんだん表現の種類が増え、色々な動きが
できた。

作品の工夫(11人)

いろんな動きが組み合わせられるようになっ
た。

独創性(8人)

即興の動きだけど、自分なりの表現ができた。
楽しく自分を出して表現できた。

分かる (38人)

教材の工夫に対する気づき(18人)

身近なものを使って色々な動きができるのだと知り、おもしろかった。
「走る一止まる」という簡単な動きだけで表現できることが分かった。

ダンスに対する気づき(17人)

今まで表現することがあまり好きではありましたが、好きになりました。
表現には様々な方法があるのだと分かった。

自分の体への気づき(3人)

動きの速さや大きさがころころ変わってとても疲れた。
体力があまりないことに気づいた。

<図4：講義4回目の感想文をKJ法によりカテゴリー分けした結果>

＜表現運動(ダンス)授業についての調査＞

今日の、表現運動授業についてお聞きします。
下の質問に○印をつけてお答え下さい。

年 組 名 前 _____

- | | | | |
|--------------------------------|----|---------|-----|
| 1. 音楽のリズムに乗って踊った。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 2. 大きく・小さいなど体全体を使って踊った。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 3. 強い・弱いなどアクセントをつけて踊った。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 4. 遅い・速いなど速度に変化をつけた。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 5. 流れがあるように踊った。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 6. こまかい動きに注意して踊った。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 7. 複雑な動きに工夫した。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 8. 簡単な動きを組み合わせて動きを工夫した。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 9. たくさん動きを考えることができた。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 10. すぐに動きを考えることができた。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 11. 恥ずかしがらずに取り組めた。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 12. 自分らしさが発揮できた。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 13. 自分から積極的に取り組めた。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 14. 友達から新しい動きやイメージを見つけることができた。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 15. 友達の意見を参考に動きを発展させることができた。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 16. 自分の意見をグループに取り入れられた。 | はい | どちらでもない | いいえ |

＜感想＞

（資料6：前半にフォークダンス・リズムダンス、
後半に表現の授業の評価票(個人用)）

＜表現運動(ダンス) 授業での評価票＞

今日の、表現運動授業についてお聞きします。
下の質問に○印をつけて下さい。

年 組 名 前 _____

- | | | | |
|--------------------------|----|---------|-----|
| 1. 楽しく授業に、取り組めた。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 2. 今日の課題に、意欲的に取り組みましたか。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 3. 音楽のリズムに乗って踊った。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 4. 流れがあるように、踊った。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 5. 広く・狭くなど、場所を工夫して踊った。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 6. 大きく・小さくなど、体全体を使って踊った。 | はい | どちらでもない | いいえ |

＜感想＞

（資料5：リズムダンス・フォークダンス授業の評価票）

<表現運動(ダンス)授業についての調査>

今日の、表現運動授業についてグループでがんばったことについてお聞きします。
下の質問に○印をつけてお答え下さい。

年 組 名 前 _____

- | | | | |
|-------------------------------|----|---------|-----|
| 1. 音楽のリズムに乗ってみんなで踊った。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 2. 遅い・速いなど速度に変化をつけてみんなで踊った。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 3. 強い・弱いなどアクセントをつけてみんなで踊った。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 4. 大きく・小さいなど体全体を使ってみんなで踊った。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 5. みんなでこまかい動きに注意して表現した。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 6. みんなで、見ている人に伝わるように表現した。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 7. 他のグループの良さを見つけた。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 8. みんなで、仲良く踊れた。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 9. みんなと、気持ちを一つにして踊れた。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 10. 意見を出し合って動きを考えた。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 11. みんなで、複雑な動きに工夫した。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 12. 簡単な動きを組み合わせて、みんなで動きを工夫した。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 13. 場面変化があるように、みんなで作品を工夫した。 | はい | どちらでもない | いいえ |

〈感想〉

〈資料7：前半にフォークダンス・リズムダンス、
後半に表現の授業の評価票(グループ用)〉

<表現運動(ダンス)授業についての調査>

今日の、表現運動授業についてお聞きします。
下の質問に○印をつけてお答え下さい。

年 組 名 前 _____

- | | | | |
|--------------------------------|----|---------|-----|
| 1. 音楽のリズムに乗って踊った。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 2. 大きく・小さいなど体全体を使って踊った。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 3. 遅い・速いなど速度に変化をつけた。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 4. 強い・弱いなどアクセントをつけて踊った。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 5. たくさん動きを考えることができた。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 6. 簡単な動きを組み合わせて動きを工夫した。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 7. 複雑な動きに工夫した。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 8. 集団の構成で作品を工夫した。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 9. 場面変化があるように作品を工夫した。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 10. なりきって表現した。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 11. 恥ずかしがらずに取り組めた。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 12. 自分から積極的に取り組めた。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 13. 友達から新しい動きやイメージを見つけることができた。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 14. 友達の見解を参考に動きを発展させることができた。 | はい | どちらでもない | いいえ |

〈感想〉

〈資料8：表現(イメージ課題)中心の授業用の評価票(個人用)〉

<表現運動(ダンス)授業についての調査>

今日の、表現運動授業についてグループでがんばったことについてお聞きします。
下の質問に○印をつけてお答え下さい。

年 組 名前 _____

- | | | | |
|------------------------------|----|---------|-----|
| 1. 音楽のリズムに乗ってみんなで踊った。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 2. 遅い・速いなど速度に変化をつけてみんなで踊った。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 3. 強い・弱いなどアクセントをつけてみんなで踊った。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 4. 大きく・小さくなど体全体を使ってみんなで踊った。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 5. 広く・狭くなど場所を工夫してみんなで踊った。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 6. 流れがあるように、みんなで踊った。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 7. 簡単な動きを組み合わせて、みんなで動きを工夫した。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 8. みんなで、複雑な動きに工夫した。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 9. 場面変化があるように、みんなで作品を工夫した。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 10. みんなで表現のテーマを工夫して考えた。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 11. みんなで集団の構成を工夫した。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 12. みんなで、仲良く踊れた。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 13. みんなと、気持ちを一つにして踊れた。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 14. グループならではの表現ができた。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 15. みんなで、なりきって表現した。 | はい | どちらでもない | いいえ |

〈感想〉

〈資料9：表現（イメージ課題）中心の授業用の評価票（グループ用）〉

<表現運動(ダンス)授業についての調査>

今日の、表現運動授業についてお聞きします。
下の質問に○印をつけてお答え下さい。

年 組 名前 _____

- | | | | |
|--------------------------------|----|---------|-----|
| 1. 自分から積極的に取り組めた。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 2. なりきって表現した。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 3. 恥ずかしがらずに取り組めた。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 4. 音楽のリズムに乗って踊った。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 5. 遅い・速いなど速度に変化をつけた。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 6. 広く・狭くなど、場所を工夫した。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 7. 流れがあるように踊った。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 8. 簡単な動きを組み合わせて動きを工夫した。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 9. 複雑な動きに工夫した。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 10. 場面変化があるように作品を工夫した。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 11. 表現のテーマを工夫して考えた。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 12. 友達の見方を参考に動きを発展させることができた。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 13. 友達から新しい動きやイメージを見つけることができた。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 14. 色々な表現ができることが分かった。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 15. 人によって感じ方が・考え方が違うことが分かった。 | はい | どちらでもない | いいえ |

〈感想〉

〈資料10：表現（運動課題）中心の授業用の評価票（個人用）〉

＜表現運動(ダンス)授業についての調査＞

今日の、表現運動授業についてグループでがんばったことについてお聞きします。
下の質問に○印をつけてお答え下さい。

年 組 名前 _____

- | | | | |
|------------------------------|----|---------|-----|
| 1. 遅い・速いなど速度に変化をつけてみんなで踊った。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 2. 広く・狭くなど場所を工夫してみんなで踊った。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 3. 大きく・小さいなど体全体を使ってみんなで踊った。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 4. 流れがあるように、みんなで踊った。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 5. みんなでこまかに動きに注意して表現した。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 6. みんなと気持ちを一つにして踊れた。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 7. グループならではの表現ができた。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 8. みんなで、なりきって表現した。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 9. みんなで練習の成果がでるように、一生懸命表現した。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 10. みんなで、意見を出し合って動きを考えた。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 11. みんなで、複雑な動きに工夫した。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 12. 場面変化があるように、みんなで作品を工夫した。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 13. みんなで集団の構成を工夫した。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 14. みんなで表現のテーマを工夫して考えた。 | はい | どちらでもない | いいえ |
| 15. 表現のテーマにそって、みんなで動きを考えた。 | はい | どちらでもない | いいえ |

感想

＜資料11：表現（運動課題）中心の授業用の評価票(グループ用)＞